

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年2月13日

**【四半期会計期間】** 第31期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

**【会社名】** 株式会社免疫生物研究所

**【英訳名】** Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 清藤 勉

**【本店の所在の場所】** 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

**【電話番号】** 0274-22-2889(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役財務経理部長 中川 正人

**【最寄りの連絡場所】** 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

**【電話番号】** 0274-22-2889(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役財務経理部長 中川 正人

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第30期 第3四半期累計期間	第31期 第3四半期累計期間	第30期
会計期間		自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高	(千円)	625,750	562,343	915,370
経常利益又は経常損失( )	(千円)	44,395	51,800	54,742
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失( )	(千円)	55,550	127,890	42,828
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	1,571,810	1,571,810	1,571,810
発行済株式総数	(株)	616,400	616,400	616,400
純資産額	(千円)	1,994,232	2,221,736	2,092,968
総資産額	(千円)	2,173,467	2,560,986	2,289,338
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額( )	(円)	90.12	207.48	69.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	91.8	86.8	91.4

回次		第30期 第3四半期会計期間	第31期 第3四半期会計期間
会計期間		自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	3.58	106.55

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、四半期連結会計期間等に係る連結経営指標等は記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれていません。

3. 持分法を適用した場合の投資損益については、損益等からみて重要性が乏しいため記載していません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

## 2 【事業の内容】

当社は、研究用関連、医薬関連、その他の3つのセグメント情報の区分にわたって、事業活動を展開しております。

当第3四半期累計期間における、各区分に係る主な事業内容の変更は概ね次のとおりであります。

### （研究用関連）

従来、幅広く代理店、製薬企業および大学等に対して販売活動を行っておりましたが、タカラバイオ株式会社との販売契約により、国内販売につきましては、平成24年5月1日より、独占販売となりました。また、海外の販売につきましてもタカラバイオ株式会社との連携を強化してまいります。

### （医薬用関連）

事業の内容について、重要な変更はありません。

### （その他）

第1四半期会計期間より、遺伝子組換えカイコによるカイコの繭中に目的タンパク質を産生する生産技術により、自社抗体製品・動物用治療薬の原料およびヒトコラーゲン配合化粧品原料の開発・生産・販売を行っております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、大震災からの復興と景気の下振れ回避が期待されましたが、世界景気の減速等を背景として、国内景気は依然として弱い動きの状況で推移しました。一方で、今後の見込みは、政権交代によるデフレ脱却や経済復興への行政に強い期待感が見られております。

当社が事業を営む業界につきましては、既存大型薬の特許切れによる影響などにより、経営環境は継続して厳しい状況にあります。一方、iPS細胞のノーベル賞受賞の明るいニュース等もあり、市場が徐々に拡大して活況を呈する期待感が見られております。

このような環境下、当社のセグメント別の業績は以下のとおりとなりました。

#### ・研究用関連事業

国内での研究用試薬の販売につきましては、平成24年5月1日よりタカラバイオ株式会社の独占販売となりました。当第3四半期累計期間においての売上高は、自社抗体製品及び測定キットにつきましては、ほぼ前年並みで推移しておりますが、受託サービスにつきましては、従来顧客との契約関係や要求事項の同社への引継ぎなどの影響等により、前年同期を大幅に下回りました。また、細胞培養関連等の取扱商品につきましても前年同期を下回る結果となっております。

その結果、研究用関連事業の売上高は、405,715千円（前年同期比15.1%減）、営業利益は25,329千円（同15.5%減）となりました。

第4四半期以降につきましては、タカラバイオ株式会社の海外子会社における、自社抗体製品及び測定キットの販売活動や、受託サービスでの年度末需要に向けた受注活動を両社協力し、邁進して参ります。

#### ・医薬用関連事業

体外診断用医薬品につきましては、自社製造の動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キット及びヒト体外診断用医薬品のタゴシッドTDMキットの販売は、堅調に推移しておりますが、前期に販売が終了しております製品等の影響により、医薬用関連事業の売上高は、138,368千円（同6.4%減）、営業損失は41,485千円（前年同期は74,434千円の営業損失）となりました。

#### ・その他

遺伝子組換えカイコによるカイコの繭中に目的タンパク質を生成する生産技術により、自社抗体製品・動物用治療薬の原料及びヒトコラーゲン配合化粧品原料の開発・生産・販売を継続しております。その結果、当第3四半期累計期間においての売上高は、18,260千円、営業損失は2,298千円となりました。なお、当セグメントにつきましては前年同期の実績がありませんので、前年同期の対比は行っておりません。

当第3四半期累計期間における製造原価、販売費及び一般管理費につきましては、引き続き経費削減に努め、事業環境の変化に対応すべく効率の良い業務体制を強化しております。

これらの結果、売上高は562,343千円（前年同期比10.1%減）、営業損失は18,454千円（前年同期は44,467千円の営業損失）となり、経常利益は51,800千円（前年同期は44,395千円の経常損失）となりました。また、当第3四半期会計期間において、当社保有の投資有価証券1銘柄の売却益として特別利益85,663千円を計上し、四半期純利益は127,890千円（前年同期は55,550千円の四半期純損失）となりました。

（参考）セグメント別売上高

単位：千円

セグメント	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間	増減
研究用関連事業	477,971	405,715	15.1%
研究用試薬関連	462,002	404,720	12.4%
実験動物関連	15,969	994	93.8%
医薬用関連事業	147,778	138,368	6.4%
医薬シーズライセンス	2,699	200	92.6%
体外診断用医薬品販売	145,078	138,168	4.8%
その他	-	18,260	-
合計	625,750	562,343	10.1%

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第3四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末比11.9%増の2,560,986千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

前事業年度第4四半期会計期間と比較して売上が減少傾向にあること等により「受取手形及び売掛金」が117,638千円、固定資産の売却及び減価償却等により有形固定資産が55,203千円、無形固定資産が15,123千円それぞれ減少しておりますが、その一方銀行からの新規借入や投資有価証券の売却等により「現金及び預金」が446,843千円増加しております。

（負債）

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末比72.8%増の339,250千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

売上の減少に伴う仕入高減少等により「支払手形及び買掛金」が10,160千円、経費の抑制等による未払債務の減少等により「その他（流動負債）」が10,835千円それぞれ減少しておりますが、その一方、銀行からの新規借入により短期借入金が100,000千円、長期借入金（「1年内返済予定の長期借入金」を含む）が66,450千円それぞれ増加しております。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末比6.2%増の2,221,736千円となりました。これは主に四半期純利益の計上によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は147,102千円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000
計	2,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	616,400	616,400	大阪証券取引所 JASDAQ (グロ-ス)	単元株式数10株 完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式
計	616,400	616,400		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年12月31日	-	616,400	-	1,571,810	-	491,753

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 10	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 616,290	61,629	単元株式数10株 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 100	-	-
発行済株式総数	616,400	-	-
総株主の議決権	-	61,629	-

(注) 1 「単元未満株式」には自己株式が4株含まれております。

2 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己所有株式) 株式会社免疫生物研究所	群馬県藤岡市中字東田 1091番地1	10	-	10	0.00
計	-	10	-	10	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社には子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。



1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	444,050	890,894
受取手形及び売掛金	272,871	155,232
商品及び製品	64,826	64,542
仕掛品	122,156	133,060
原材料及び貯蔵品	64,741	68,431
その他	6,526	8,564
流動資産合計	975,173	1,320,726
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	563,262	525,755
土地	362,687	362,687
その他(純額)	86,297	68,601
有形固定資産合計	1,012,247	957,043
無形固定資産	60,858	45,735
投資その他の資産		
投資有価証券	187,068	182,058
その他	53,989	55,423
投資その他の資産合計	241,058	237,481
固定資産合計	1,314,164	1,240,260
資産合計	2,289,338	2,560,986
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,235	10,074
短期借入金	-	100,000
1年内返済予定の長期借入金	31,400	31,404
未払法人税等	5,277	8,199
賞与引当金	12,448	6,585
その他	71,517	60,682
流動負債合計	140,878	216,946
固定負債		
長期借入金	54,600	121,046
退職給付引当金	798	1,258
その他	92	-
固定負債合計	55,491	122,304
負債合計	196,369	339,250

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,571,810	1,571,810
資本剰余金	491,753	491,753
利益剰余金	42,828	170,718
自己株式	16	16
株主資本合計	2,106,375	2,234,266
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,406	12,529
評価・換算差額等合計	13,406	12,529
純資産合計	2,092,968	2,221,736
負債純資産合計	2,289,338	2,560,986

(2)【四半期損益計算書】  
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	625,750	562,343
売上原価	243,509	229,506
売上総利益	382,241	332,837
販売費及び一般管理費	426,708	351,291
営業損失( )	44,467	18,454
営業外収益		
受取利息	283	121
販売契約一時金	-	70,000
その他	3,969	2,239
営業外収益合計	4,253	72,360
営業外費用		
支払利息	1,282	995
為替差損	2,451	735
その他	447	375
営業外費用合計	4,181	2,106
経常利益又は経常損失( )	44,395	51,800
特別利益		
投資有価証券売却益	-	85,663
特別利益合計	-	85,663
特別損失		
減損損失	9,151	-
固定資産売却損	-	2,398
その他	-	408
特別損失合計	9,151	2,806
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失( )	53,547	134,656
法人税、住民税及び事業税	2,002	6,766
法人税等合計	2,002	6,766
四半期純利益又は四半期純損失( )	55,550	127,890

【会計方針の変更等】

当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	
当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。	
なお、この変更による当第3四半期累計期間の営業損失、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。	

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	3,328千円	562千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	75,400千円	63,941千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の  
未日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の  
未日後となるもの

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期貸借対照表計上額等が前事業年度末と比べて著しく変動しておりますが、四半期貸借対照表計上額と時価との差額及び前事業年度の貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(持分法損益等)

関連会社はありますが、損益等からみて重要性の乏しい関連会社であるため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	研究用関連事業	医薬用関連事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	477,971	147,778	625,750
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	477,971	147,778	625,750
セグメント利益又は損失( )	29,967	74,434	44,467

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第1四半期会計期間において、固定資産の一部(社宅用資産)について資産の効率化及び財務体質の強化を図るため売却することとし、9,151千円を減損損失として計上いたしました。なお、減損損失金額をセグメント別に按分すると研究用関連7,322千円、医薬用関連1,829千円であります。

当第3四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	研究用関連事業	医薬用関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	405,715	138,368	544,083	18,260	562,343
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	405,715	138,368	544,083	18,260	562,343
セグメント利益又は損失( )	25,329	41,485	16,155	2,298	18,454

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カイコ関連事業の売上を含んでおりません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	16,155

「その他」の区分の損失( )	2,298
四半期損益計算書の営業損失( )	18,454

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( )	90円12銭	207円48銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(千円)	55,550	127,890
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( )(千円)	55,550	127,890
普通株式の期中平均株式数(株)	616,386	616,386

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

株式会社免疫生物研究所

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 島 茂 喜 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 桂 川 修 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社免疫生物研究所の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第31期事業年度の第3四半期会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社免疫生物研究所の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。